



## H26年度 国際多職種協働実習

### International Multi-disciplinary Cooperative Practice in Los Angeles



# 目次

➤ 自己紹介	p 1
➤ 事前準備	p 3
➤ 研修日程	p 4
➤ 講義で学んだ事	p 5
• 米国の医療制度と医療保険制度	
• 米国の看護師および多職種連携について	
➤ フィールドトリップ(現場視察)	p 7
• Children 's Hospital Los Angeles (ロサンゼルス小児病院)	
• Methodist Hospital of Southern California (メソジスト病院)	
• Rancho Los Amigos National Rehabilitation Center (リハビリセンター)	
• Atherton Homes (総合シニア施設)	
➤ 合間を縫っての…観光について	p17
• ドジャース・スタジアム	
• ユニバーサルスタジオハリウッド	
• グリフィス天文台	
➤ 交通手段について	p21
• 飛行機	
• メトロ(地下鉄)	
• バス	
➤ 食事について	p23
➤ 宿泊について	p24
➤ お金について	p24
➤ 研修費用について	p25
➤ お土産について	p25
➤ 引率の先生	p26
➤ 研修で印象に残っていること・もの	p27
➤ 自由記載	p28
➤ この研修経験がもたらした変化	p29
➤ この研修を振り返って	p30
➤ 最後に	p31
➤ あとがき	p31

## 自己紹介

### 理学療法学科3年 吉田 雄亮



就職のことを考える時期になってきた時に、国際多職種連携のことをお聞きしました。授業内で海外ボランティアのことを聞いてから、米国の医療に対する興味を持ち始めていました。日本と米国との医療の違いを体験し、これからの自分の糧にしようと思い、参加しました。

### 理学療法学科3年 海沼 慶明

今回参加してみようと思った理由は、まず米国の医療現場を実際に生で見てみたいということ、米国は医療が進んでいると言うが、どこがどのように進んでいるのかを自分の目で見てみたかったからです。



### 看護学科3年 渡辺 花奈

参加しようと思った理由は、今年行かなかったら来年は就職活動などで忙しくなり、ロサンゼルスに行く機会はないなと思いましたし、日本の医療を他の国と比較したことがなかったので、比較してみたいと思ったからです。

### 看護学科3年 岡田 梨香

去年の夏に開催された、海外で働く看護師を講師に招いた海外招聘講演を聴講したことをきっかけに、海外の病院や医療の現状について興味を持つようになり、聞いただけでは物足りず、ぜひ自分の目で見たい、感じたいと思っていました。そんなときにこの研修が行われると聞き、「こんなチャンス滅多にない！」と、迷わずに参加を決めました。百聞は一見にしかず、自分の目で海外の医療を見て、日本との比較を行い、より深く日本の医療について考えられる機会になればいいなと期待して臨みました。





## 看護学科3年 鈴木 咲紀

この研修に参加しようと思ったのは、アメリカの医療の現状を知りたかったからというのが大きいです。また、日本の看護師とアメリカの看護師とで、働き方や働く内容に違いがあるのかなど、日本以外の国の医療を学び、実際に目で見て、日本の医療と比較してみたいとも思いました。現地の病院を実際に見学できる機会はめったになく、とても貴重であると思ったため参加を決意しました。

## 理学療法学科2年 宮澤 拓人

この研修に参加させていただいた理由は、以前より2年の夏休みは海外へ行こうと考えていたのと、ESSというサークルで活動をする中で、実際に日本語が通じない世界に自分の身を投じてみたいと思ったからです。その目的を達成させ、さらにアメリカの病院を見学し、アメリカの医療について学ぶ機会を与えて下さるこの研修に魅力を感じ、参加を決めました。



## 助産学専攻科 栗田 希

(臨床経験3年, 看護師)

元々外国の文化や歴史に興味があり、またJICAや海外青年協力隊などの活動や海外の医療について関心があったためです。

## 引率の先生



看護学科 前田 隆子 先生



理学療法学科 坂本 由美 先生

## 事前学習・事前準備

### ○ 準備日程

- 4月：履修登録
- 6月：オリエンテーション・・・研修概要説明，参加学生顔合わせ（講義）
- 7月：パスポート申請（パスポートを持っていない学生）
- 8月：Survival English・・・コミュニケーション方法の心得（講義）  
ESTA申請  
行動計画作成 / 老人施設でのボランティア活動の準備
- 9月：直前オリエンテーション・・・リスク確認 / 旅行保険等確認（講義）

### ○ 個人の準備

- ・ パスポート申請の際，県外に住民票がある学生は居所申請書，住民票のコピー，両親の署名入りパスポート申請書を用意すれば，阿見町役場でパスポートを申請し受け取ることができる。
- ・ スーツケースは65～90Lのもので，行きの場合は10～15kgが望ましい。  
→ 帰りにお土産等で重量が23kgを超えてしまうと飛行機に預ける際に追加料金がかかる。
- ・ 食事処やホテル，あるいは病院で使う日常会話を確認しておく。

### ○ ボランティア活動の準備

- ・ ボランティア活動の準備のために，8月19日，22日，26日，29日の計4回集まった。
- ・ ボランティアでは，老人ホームの入居者の方々に，日本の文化で手軽に体験してもらえる折り鶴と書道体験をしてもらうことに決めた。
- ・ 英語で説明しながら鶴を折っていくということに不安を感じ，Parry先生に折り方の言い回しなどの指導をいただき，何度も練習した。ある程度英語を暗唱して，実際に折り紙を折れるまでになった。
- ・ 医療大のことや，茨城県および大学周辺地域の紹介を英語で行うための準備をした。
- ・ 入居者に見せるためのスケッチブックを用意し，そこに英文を書き，写真や折り鶴を貼付した。
- ・ どのようにしたら伝わりやすいかなど，試行錯誤しながら取り組んだ。



## ○ 現地の行動計画の作成

- ・ 自由研修日をどう過ごすか、目的地を決め、どのようなルートで行くかについて計画した。
- ・ なかなか皆で集まれず、行先や必要なチケット等を現地で買うか、インターネットで事前に買うかなどを決めるのに時間がかかった。

## ○ 準備全体について

- ・ この研修を機に初めて顔を合わせたメンバーだったが、お互い協力しながら楽しく準備できた。
- ・ ロサンゼルス交通やアメリカ文化など、分からないことばかりであったため、情報収集をしながらの準備であった。
- ・ スケジュールが合わず、SNSでのやり取りが多くなったため、個々の意見や考えが上手く伝わらず、初めはスムーズに準備を進めることができなかつたように感じた。
- ・ もっと早い段階から準備していけば、ゆとりを持ってこの研修に参加できたと思う。

# 研修日程

2014年9月2日(火)

19:15 成田空港発(シンガポール航空) → ロサンゼルス着(13:30) 宿泊先のホテルへ  
宿泊先(Ramada Inn Wilshire Center in L.A.)にて、現地オリエンテーション: ミレニア社の担当者による研修の概要説明・ホテル周辺の案内等

3日(水)

午前: 講義 @ミレニア社(米国の医療制度と医療保険制度について)  
午後: 現場視察 @Children's Hospital Los Angeles(小児専門病院)

4日(木)

午前: 講義 @ミレニア社(米国の看護師および多職種連携について)  
午後: 現場視察 @Methodist Hospital of Southern California(地域急性期総合病院)

5日(金)

午前: 現場視察 @Rancho Los Amigos National Rehabilitation Center(リハビリテーションセンター)  
午後: 現場視察 @Atherton Homes(総合シニア施設)  
修了証授与 @ミレニア社

6日(土)

視察内容のディスカッション&観光

7日(日)

15:45 ロサンゼルス発 → . . . 機内泊

8日(月)

19:15 成田空港着



## 講義で学んだこと

### ○ 米国の医療制度と医療保険制度

ミレニア・エデュケーションの担当の方が講義形式でアメリカの医療制度や医療保険制度を中心に、医療職や病院、高齢者施設の特徴など説明して下さいました。以下に、学んだ事や感想を記す。

- 日本に比べて入院日数が短いことが衝撃的だった。
- 平均入院日数が日本より短いため、退院後のケアが更に重要であることが分かった。
- 仕事に分業されていて、自分の専門分野に集中した仕事ができるので、医療の質が上がっているのではないかと思った。
- 医療費の約半分が人件費だったことには驚いた。
- 日本は国民皆保険制度によって運営されているが、米国ではこのような仕組みはなく、所得や職業によって加入できる保険が異なり、保険に加入すらできない人もいます。  
⇒ アメリカの医療は充実しているかのように思われたが、実際は医療の偏りがあり、平等な医療が施されていないという現状であることを知った。
- 自分で自分に適した保険を探すことは大変そうだなと思ったが、その分、個人個人の医療に対する関心は高いのではないかと思った。
- 無保険者が問題となっているが、無保険者を無くそうとする試みがされていた。  
→ 医療費が病院の持ち出しになることもあり、医療全体のコスト高の原因になっている。  
→ 日本の保険制度はすごいなと思った！
- 病院と医師が雇用関係になく、ほとんどの医師は開業しているため、病院に医師が少ないということに驚いた。
- 病院にいる医師の数が少ないため、正看護師が病院を支えているという現状を知った。  
⇒ 正看護師にかかる負担や責任が大きくなるが、分業が日本より細かくされているため、負担の軽減につながっていた。
- 初日に米国の医療制度と医療保険制度をきちんと説明してもらえたため、その後の研修にも役立った。



## ○ 米国の看護師および多職種連携について

日米の看護師の資格を持つ日本人看護師（アメリカでは正看護師）の神崎恵子さんにアメリカの看護師資格の多様性や看護業務について、さらには多職種との連携について現場での経験を基にお話しいただいた。学んだ事や感想は以下の通りである。

- 正看護師と准看護師の役割がはっきりしていた。
- 正看護師の病院内での立場の違いや、院内連携の話しが印象的。
- 給料の良さ。残業が無いのに、お給料はたくさんもらっている。羨ましい！
- 看護師が飽和状態だということは日本では考えられない。看護師の職が人気なのだと思った。
- 病棟に看護師が不足したとき、それをカバーするための看護師（フロートナース）がいる。
- 看護師が休憩しているときに看護業務を行う看護師（ブレイクナース）がいる。
- 常に看護配置の人数を保っているところが日本とは違う。  
⇒ 昼でも夜でも看護師の患者受け持ちの比率は変えてはいけない！夜勤も人数が多い！
- NP（ナースプラクティショナー）という上級実践看護師がいる。  
⇒ NPの発足の背景にあるのは医師不足と、医師よりも看護師を雇うほうが安いからということである。日本はまだ専門の資格はなく、普及していない。日本だと医師が行う医療行為の一部を行える。看護師という背景があるNPを医師も一目置いている。
- 医療従事者の権利や地位が高い。  
⇒ 責任は大きく、看護師、PT、OT、薬剤師等は2年に1回免許の更新が必要である。
- さまざまな職種の人が病棟で働いている。
- リフトチームと言う、体格の良い人を動かしたり（体交）、トランスファーをするための専門の職種があった。  
⇒ 看護師の腰などを守り、身体的負担を軽減するためにある。アメリカ特有の職種だと思った。
- 1人の看護師に負担が掛かり過ぎないようにしている。  
⇒ 残業はリーダーナースが、他の看護師に分配するため、ほとんど残業はない。
- 様々な職種がいても、きちんと情報共有・チーム医療が成り立っていることが素晴らしい。



## フィールドトリップ（現場視察）

### ➤ Children's Hospital Los Angeles（ロサンゼルス小児病院）

全米の小児病院の中でベスト10に入る、ベッド数603床の病院。家族重視のケアを行う。まず、ER病棟の看護師長さんにERやICUなどの施設を案内していただき、その後チャイルドライフスペシャリスト(CLS)からのお話を聞いた。その後、看護学科の学生は病棟看護師と1対1のシャドーイング、PTの学生はリハビリ病棟へ行き、施設見学や病棟ナースの説明を聞いた。



最後に、病院の屋上へ向かい、ドクターヘリのヘリポートからロサンゼルスを一望した。

以下、Children's Hospital Los Angelesでの学びと感想：

- 小児科を一番見学したいと思っていたので、3つの病院で一番印象に残っている。
- 救急で搬送されて来た患者さんをまず診察するのが看護師ということに驚いた。また、そこで重症度別に分類されて重症度の低い患者さんの治療をするのが看護師だということにも驚いた。
- ナースステーションがたくさんあって、看護師の数も多かった。
- 看護師が慌ただしく動いている様子がなく、落ち着いていて、ゆとりがあるようだった。
- 基本的に個室で、プライバシーが守られるようになっていた。
- 小児病院であるため病棟内には遊び場のようなものがあった。また、施設が全体的にカラフルで、とても明るく可愛い印象をうけた。
- リハビリ室やCLSと子供が使用する部屋には、いろいろな玩具や遊具が置いてあった。



- チャイルドライフスペシャリスト（CLS）の存在
  - ⇒ 子供の発達を考え、目的、発達段階、心理学を踏まえ、病院の業務とリンクさせて、患者さんのニーズに合わせていく子どもの専門家。
  - ⇒ 日本にも米国で学んだCLSがいるらしいが、あまり普及していない。
  - ⇒ 子どもであっても、その子の理解力に合わせて、丁寧なIC（イフォームドコンセント）が為されており、子どもを一人の人間として扱い、子どもでありながらも自分のことや、自分が受ける治療に対する理解をきちんと促すところは日本と違うと感じた。

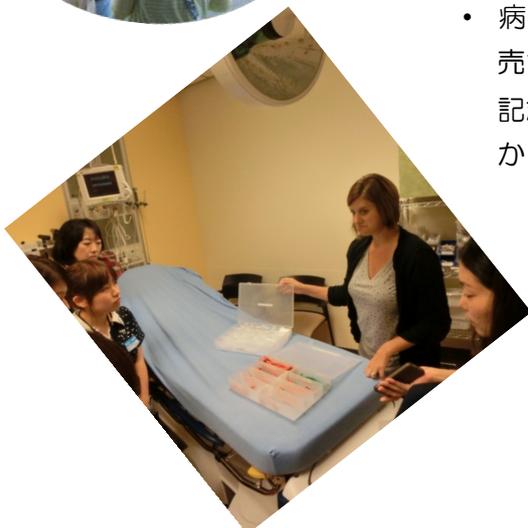


- ⇒ アメリカではCLSが患者だけでなく保護者への対応も行い、重要な役割を担っている
- ⇒ 子どもが病気と闘ううえで大きな力になるなと思った。

- ヘリポートからロスを一望できた！ダイナミーーーーーック！！



- 病院の売店には、病院のロゴが入ったポロシャツなどが販売されている。値段は少し高いが、購入したら、かなりの記念になると思う。自分に合うサイズがあったら買った・・・。



## ➤ Methodist Hospital of Southern California (メソジスト病院)

南カリフォルニア・メソジスト協会が地域住民のために設立したベッド数394床の急性期総合病院。コミュニティ病院として、地域密着型の活動を積極的に行っている。

ER, 脳卒中(一般)病棟を見学し, PTの学生はリハビリ部門, 看護の学生は周産期病棟を見学した。



以下, Methodist病院での学びと感想;

- 脳卒中病棟では, 患者の様子や状態を映し出しているモニターがあり, そのモニターを常にチェックする役割を担う看護師がいた。何か異変があった場合でもすぐに対処できるため, 患者にとって安心なシステムであると思った。
- 病院の雰囲気は医療者間のコミュニケーションが常にあり, アットホームな感じであった。
- 病室にボードがあり, 様々な医療従事者の連絡先や, 質問事項を書けるようになっていた。
  - ⇒ 患者が疑問に思うことがあったら, 看護師を通してPT, OTに伝えるのではなく, 患者から直接PT, OTなどに質問することができるようになっていて, とても良いシステムだと思った。
- 周産期病棟では, 入院している妊婦の数が少なくて驚いた。
  - ⇒ 出産の直前にしか入院せず, また出産後もすぐに退院するため。
  - ⇒ 日本は, 子供を産む場所があまりないとされているが, アメリカは平均入院日数が2.6日と短いため, 空きベッドが多く, 産む場所が多くある点が日本と違う点だと思う。
- 子供を産むときに約8割が硬膜外麻酔を使用し, 無痛分娩であるということに驚いた。
- 分娩の際, 硬膜外麻酔を用いた無痛分娩が8割程度だと聞き驚いた。
  - ⇒ 文化によって, 分娩方法や分娩に対する考え方が違うのだと思った。

- アメリカの方は体重が重いので、生まれてくる赤ちゃんの体重も重いのではないかと思ったが、だいたい3,100~3,200gで生まれてくるといい、日本人とさほど変わらないと思った。
- 座面の大きな車いすや、体を動かす（体位交換や移動時など）ための専用機械（リフター）など、体格が良い人のための移動機器がとても充実していた。



一人用の車いすなのに、この大きさ！  
私たちなら二人でも座れます。



- 理学療法室は大きいわけではなく、日本の病院の理学療法室と変わらない、普通の広さであった。
- 患者は高齢の方が多く、リハビリの様子はあまり日本と変わらないのかなと感じた。
- 入院当日から患者さんのご家族に指導を行うことで、早期の自宅復帰が成されていた。



➤ 翌日のボランティア活動準備

ミレニア社の松本さんに、英語の言い回しなどのアドバイスをもらいながら、ホテルで翌日のボランティア活動の最終準備をしました。



しっかりと、リハーサルもやりました。



## ➤ Rancho Los Amigos National Rehabilitation Center (国立リハビリテーション・センター)

医療リハビリテーション施設として世界的に有名で、アメリカで最高のリハビリテーション病院として10位以内に順位づけられる。ベッド数395床。

看護の学生はICU，成人脳損傷ユニットを見学，PTの学生は患者セッションを病室に迎えに行くところからリハ室で介入するまでを見学した。その後，理学療法士によるプレゼンテーションと質疑応答を行った。最後にCARTというリハビリ技術センターとセンター内のモデルルームを見学した。



以下，Rancho Los Amigos National Rehabilitation Center での学びと感想：

- ICUでは椅子になるベッドや空気圧の変化で患者の体位変換を助けるベッド，排痰を促すベッドなど設備が充実していた。
- 理学療法セッションをフルに見学することができた。PTとPTAがペアになり，連携して患者さんに介入していた。  
⇒ PTの負担を減らし，リスク管理や，より多くの視点で患者を見ることができていた。



- リハビリテーション専門の病院であるため、病院内が広々としていた。
- 障害者スポーツのトロフィーが展示されており、障害者スポーツが盛んだった。  
⇒ スポーツすることを楽しみの一つとして、よりリハビリに励めると思う。



- CART (Center for Applied Rehabilitation Technology, リハビリテーション技術センター) を見学させてもらったが、ALS患者向けの、目でカーソルを動かすパソコンや簡単に使えるマウスなどがあった。



- モデルルームでは、リフターを体験させてもらったが、機械が行ってくれるため、介助する人がほとんど力を使わずに移乗ができた。
- モデルルームの見学では、本物の設備を見ることができると、退院後の生活がイメージしやすいと思った。



## ➤ Atherton Homes (総合シニア施設)

ナーシングホーム、介護施設、認知症ユニット、高齢者ホーム施設が同じ敷地内に設置されているコミュニティ。施設に到着後、まず、入居者の方に提供されているものと同じランチ・メニューを食べさせていただいた。



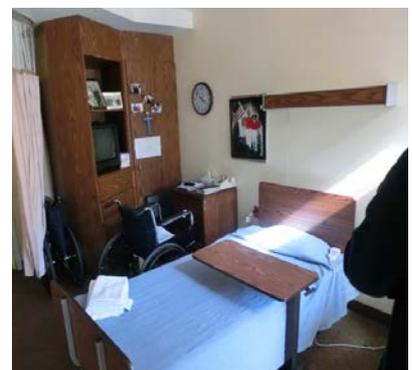
その後、ボランティア活動として入居者の方と交流をした。ボランティア活動では参加して下さった入居者に、何か形として残るものを…と考え、入居者の方と一緒に折った鶴と、事前に折って用意した亀を色紙に貼り、そこにカタカナで各入居者のお名前を書き、一人一人にプレゼントした。

ボランティア活動の後に施設内を見学し、最後に看護管理者、施設管理者の方と面談を行った。



以下、Atherton Homesでの学びと感想；

- 医師がないので、看護師、介護士は患者さんの変化にすぐに気付くことが大切だと思う。
- 入所者は部屋を自分の好きなように飾ったり、家具の配置を決めたりしていたので、過ごしやすく、安心する空間だなと思った。
- 施設内はとても広く落ち着いて、生活しやすそうな雰囲気だった。
- 交流した入居者の方はみんな元気で、施設も日本の老健などの施設に比べて明るく、入居者の方も自然に生活していた。





- ボランティア活動では日本の文化体験や大学の紹介を行った。
- 予想していた人数以上の患者さんと触れ合うことができ、自分達が練習してきた拙い英語にも拍手をして頂き、本当に感動した。プレゼントする物品が不足するアクシデントがあったが、ミレニア社の方や、先生方と協力して、最高の形で終わることができた。
- たくさんの方が参加してくれて良かった。時間通りに進めることはできなかったけれど、楽しい時間を送ることができた。次の研修のときは、鶴ではなくて、もっと簡単な折り紙にした方がいいかもしれない。
- 日本文化の紹介も、同じ内容のスケッチブックをいくつか作って二人で回ったりすれば時間短縮になったかもしれない。
- 英語が話せず、上手く伝わらなくても笑顔で接してくれた。
- 鶴を折ったり、筆ペンで名前を書いたりと多文化の方と交流することができ、とても貴重な体験となった。
- 英語とジェスチャーを交えながらもコミュニケーションが取れたので、楽しかった。
- 以前にも日本の学生が来たらしく、写真が飾ってあった。その学生たちは浴衣姿だったので、もし余裕があったら日本っぽい服装で行ったら、より良かったのかなと思う。



研修修了

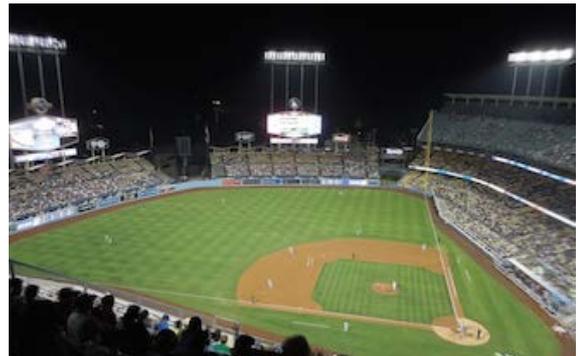


## 合間を縫っての…観光について

### ドジャーススタジアム

#### ➤ 行き方

ホテル⇒ 徒歩 👤 ⇒ Willshire Western 駅 ⇒ メトロレイル（パープルライン）🚇 ⇒ Union 駅 ⇒  
無料シャトルバス 🚌 ⇒ Dodger Stadium（帰りはこの逆）



#### ➤ コメント

- 修了証授与後、すぐにホテル戻って準備して、メトロに飛び乗って…という感じだったが、スタジアムに着いたのは5回表くらい…。最初から見たかった…。
- スタジアムに着いてから入口に迷ったが、観戦自体はとても楽しかった。
- スタジアム内では、写真を撮ってくださいとお願いされるので、写真を撮るときの英語も練習すべき…「Three Two One Cheese!」よりも、「Say Dodgeeeeer!」がいいかも(\*'▽')
- 日本のプロ野球も観戦したことがあったが、規模が全然違った。



- 観客(ファン)は踊って盛り上がり、笑顔でお祭りのようだった。
- 名物、ドジャードック?も食べられて満足!玉ねぎをかけ放題で楽しかった!
- 一気に引き込まれて、家族の分までTシャツを買うほど好きになった!
- とにかくアメリカという感じだった。人の多さ、みんなで楽しんでいる感じ、花火🎆
- テレビにも映れて楽しかった!応援も!
- 一度は生で見てほしいメジャーリーグ!



Time Warner Cable  
のカメラマンに撮影  
されました。



Friday nightは花火  
もあります。



## ユニバーサルスタジオハリウッド (USH)

### ➤ 行き方

ホテル ⇒ 徒歩 👤 ⇒ Willshire Western 駅 ⇒ メトロレイル (パープルライン) 🚇 ⇒ Willshire Vermont 駅 “乗り換え” ⇒ メトロレイル (レッドライン) 🚇 ⇒ Universal City 駅 ⇒ シャトルバス 🚌 (無料) ⇒ Universal Studios Hollywood (帰りはこの逆)

### ➤ コメント

- 1日で全部のアトラクションを体験できる規模。
- ジュラシックパークのジェットコースターでは思った以上にずぶ濡れになるので注意。  
⇒天候が良好であればすぐ乾く。
- どのアトラクションも水をかけすぎだろ！って思った。でも、暑かったからちょうどよし！



- ディズニーランドみたいに混んでなくて、たくさんのアトラクションを周ることができて良かった。長時間並ばない！
- 意外と急直下する乗り物が少なくて楽しめた！でも、揺れや速さはすごかった！！
- USJとアトラクションが同じものは数個しかなく、新鮮だった！！
- お土産もたくさん買えて満足！
- アトラクションのクオリティーが結構高かった！
- 映画のロケ地や使われていたものを見られて魅力的(\*^^\*)



※ ドジャーススタジアムの入場チケットもユニバーサルスタジオのチケットも、事前に購入した方がスムーズ！（割引もある）それぞれ、公式サイト（英語）で注文すると、メールにバーコード付きのチケットが送られてくるので、それを印刷（白黒可）して持っていけばOK！ただ、クレジットカード決済になってしまうので注意！

## グリフィス天文台

### ➤ 行き方

ホテル ⇒ 徒歩 👤 ⇒ Willshire Western 駅 ⇒ メトロレイル（パープルライン）🚇 ⇒ Willshire Vermont 駅 “乗り換え” ⇒ メトロレイル（レッドライン）🚇 ⇒

Vermont Sunset 駅 ⇒ シャトルバス 🚌 ⇒ Griffith Observatory（グリフィス天文台）  
（帰りはこの逆）

※ シャトルバス 🚌（Dash）は土日のみ運行。

35分毎にやってくる。

運行時間は22：00まで。運賃片道50¢。ロス市交通局運行。



### ➤ コメント

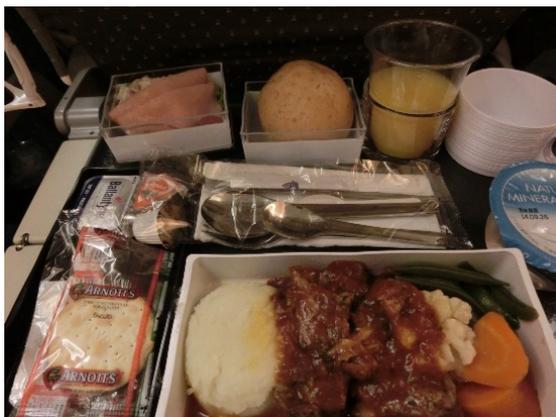
- 夜景を見ることになるが、携帯ではなく、カメラでとるのがオススメ。絶景。
- ロサンゼルス夜景美しい♡ キラキラしていて、とってもきれいだった！
- 屋上？二階？に上がるとカップルだらけで混雑していた！！幸せそうだった～（笑）
- 神戸の六甲山とかスカイツリーから夜景とは違った光景で、まっすぐな道路に沿った光が何本もあって、それが気に入った！！（笑）
- 日本人の観光客が多くて驚いた！あちこちから日本語が聞こえた～！
- バスの本数が少なく、たくさん人が乗るので注意！
- ロサンゼルスを一望できて、とってもよかった～！
- 帰りのバスの時間や、集合場所は暗いから注意が必要！



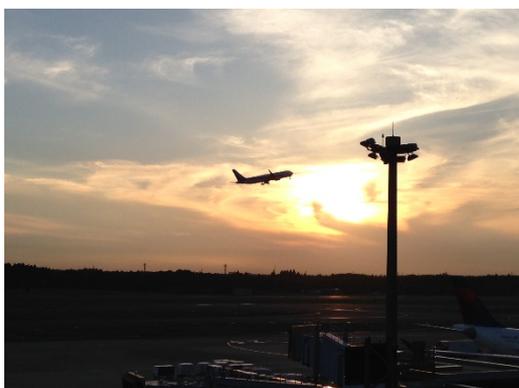
## 交通手段（移動）について

### ○飛行機 →

- 行きも帰りもかなり時間がかかるので、エコノミー症候群に注意。
- 食事は量を多く食べる人は乗る前に少し食べておく。機内食は味気ないので、もの足りない。
- 日本食とインターナショナルが選べる。インターナショナルがオススメ！（写真）。



- 移動時間は長かったけど、目の前の画面で映画を観ていたら、あっという間に着いた。
- 窓際だったら、きっと空からのアメリカの景色が見られたと思うから、窓際の席がよかったなあ。
- 私は通路側がよかったな～。トイレに行くのが面倒だったから！！
- 米国の医療について調べておいたものを飛行機の中で読む予定だったのに、映画の誘惑に負けて読むことができなかった。たくさんの映画があって楽しめた！でも、どれも途中で寝てしまって、中途半端になった～～～！
- 映画を見て、寝て、機内食で起きて、映画を見て、寝て、機内食・・・の繰り返しだった。
- 寝心地は悪かった！！首がおかしくなった！！
- 初めての飛行機だったけど、特に問題なかった。
- シンガポール航空のCAさんが、みなさん美人だった！
- 男性のCAも多かった。



➤ メトロ（地下鉄） 

- Tap（写真）を使用するので、利用方法を確認しておいた方が良い。
- Tapを買うときや、チャージするときには大きなお金(\$10)を入れると、おつりが\$1 貨幣になるので注意！
- 時間帯や路線によって異なるかもしれないが、車内は混んでおらず、基本、座れた。行き先と降りる駅の確認も必要。
- 電車代が安いところはすごくいいと思う(一回どこまで乗っても\$1.5)。
- Tapを電車から降りて改札を出るときにもタッチしそうになったけど、入場の時だけでよかった！日本（Suica）とは違った！
- 電車の座席に1人席もあった。
- ホームの造りがシンプルだった。



➤ バス （メトロバス）

- とても複雑なので、乗るところ、降りるところ、乗車時間は何分ぐらいかかるのかを、事前によく確認しておく必要がある。とにかく初めての観光客にとっては難関(-\_-)。
- かなり混み合うので、物品の管理に注意。
- 英語がわからない！運転手さんにもっと丁寧に説明してほしい。
- 「次は～です」というアナウンスがなく、降りる所を失敗して、沢山歩いたことが良い思い出（笑）
- どこまで乗っても同じ値段(\$1.5)というのに驚いた！
- 乗るときにお金を払う！！
- ボタンじゃなくて、紐を引っ張ることで降車の合図をするのが面白かった！  
⇒ 停車する場所を知らせるアナウンスは無く、降りる付近になったら、黄色い紐を引っ張って合図をしなければならないので、どこで降りるのか、しっかり調べて覚えておく。



## 食事について

- 基本、味が濃い。そしてボリュームー。
- 金額も安く済ませたければ安く食事を済ませられるが、普通に食べると10ドルを超える。
- 一個、即席の日本食（カップ麺）を持っていくのも良い。  
⇒ ただし、米国は牛製品の持ち込みに厳しいので、カップ麺などで牛が入っているものは避けた方が良い。
- やっぱり日本のご飯はおいしいなって思った。
- パンケーキ、デカすぎて食べきれなかった。そして、チーズをかけるな！
- お寿司も焼肉も、絶対日本の方がおいしい。
- 海外のお寿司を食べてみたかったから、良い経験になった。値段が高くて、寿司は小さかった。
- IHOPでは、せっかくだからとパンケーキを頼んだけど、大判焼きの皮の味がした。  
⇒ IHOP（アイホップ）は映画「I am Sam」にも登場した、パンケーキなどが主流のチェーンレストラン



☆ IHOPのパンケーキ☆



☆ カリフォルニアロール☆

- 日本のパンケーキの方がふんわりしていておいしい！
- マクドナルドも大して日本のマクドナルドと変わらなかった。
- 全体的にまずいと感じる料理はなかった！お寿司とか、普通においしかった～！
- 飲み物は健康に悪そうな色のものが多かった。
- “アメリカ”って感じのものを、あまり食べなかったような気がする！（笑）
- 量が多く、偏り易い。  
⇒ 食事の内容も…だけど、脂肪や塩分が多かったり、味付けなども甘すぎたり…etc.
- 研修中の昼食みたいに、自分の好きなものを選べるのはよかったと思う。



## 宿泊について

- 今回、女性は2人で1部屋、男性は3人で1部屋でした。
- ベッドの大きさに驚き！寝心地も最高!!
- 2人部屋に3人泊まる時の簡易ベッドは以外に小さい。
- 2人で寝る分には充分だが、3人だと少しつらいのでは・・・。
- フロントで買うジュースより、部屋の近くの自動販売機で買うジュースの方が安かった。
- アメニティーが思ったより小さいので、現地で買うといい。
- シャワーのノズルが伸びなかったり、テレビが点かなかったりと、設備に不便があったものの、特に問題はなかったと思う。
- 宿泊先での朝食は、朝食としては重い食事が出てくる。注文してサーブされるまでに時間がかかる。  
⇒ 今回の宿泊は朝食付きだった。毎朝、5種類の朝食メニューから1つ選び、注文する形だった。
- 部屋のテレビが点かなかったことが残念。  
⇒ テレビはフロントに言えば対処してくれますので、是非、フロントに申し出ましょう。
- ホテルといっても不安で、部屋を出るときには毎日キャリーバックの中に荷物をすべて入れて、鍵を必ずかけるようにしていた。
- 生活するのに不自由はなかったけど、日本のサービスはすごいなと改めて感じた。
- ホテル内にWi-Fiが入っており、スマホやパソコンでインターネットを使えたのが良い！



## お金のこと

- 1ドルや5ドル紙幣が使いやすくオススメ！  
⇒ 今回、実習に行く前のオリエンテーションでは、20ドル札メインで準備したほうが良いということだったが、実際はもっと少ない額を使う機会が多かった（交通機関の利用やチップなど）。  
⇒ 空港で外貨両替できるので、その時に1ドルや5ドルを多めにしてもらおうもあり！
- コインをうまく使いこなそう！  
⇒ 色と形が日本と違うので戸惑うが、慣れるとアメリカのコインの方が使いやすいかも…

## 研修費用について

- もう少し安くして欲しい…。良い研修だったけど！
- 金額的にとても大きいですが、通訳が付き、4つの病院・施設を見学するという内容のため、ある程度妥当な金額であるのかな…とも思う。
- 高かった。
- 研修内容は良かったが、気軽に参加できる額ではない。
- 通訳、移動のドライバー付きということを考えれば妥当だった。ただ、参加に踏み切るには、やや高い金額だったと感じる。「行ってみたいが、お金が…」という友人は多かった。
- いろいろなタイプの病院、施設を見学することができ、また通訳の方もいたので疑問に思ったことなどを聞きやすい環境でもあった。しかし、少し高いと思う。
- 参加費をもう少し抑えていただけると良い…。

## お土産について

- お金が余れば、とても多くのお土産を購入可能。
- 安いチョコは美味しくない。ファミリーパックのお菓子詰めチョコはオススメしない。
- スーパーマーケットや薬局で大体買える。
- CVS（アメリカのドラッグストア）でしか買い物をしていないから、もっとお土産専門店とかで買ったかったかも。近くに無かったから、しょうがないよね。
- CVSのおかげで安く買えた！空港で売っているものと同じものがずっと安く買えて、お土産は地元のスーパーマーケットやドラッグストアで買うべきだと思った。
- 買ったチョコレートおいしかった～！みんなに喜ばれた！
- アミューズメントパークなどで買うのも良いが、スーパーマーケットなども面白いものがたくさんあるので、そこで買うのもオススメ！
- 体裁のいいお土産は空港でも売っていることが判明！少々高くなるけど、移動や荷物を考えるなら、空港で買うのもあり。



宿泊先から徒歩圏内にあるドラッグストア（CVS）とスーパーマーケット（Ralphs）

## 引率の先生

- ある程度、英語で言っていること、書いてあることを伝えてくれ、さらに現地の通訳さんでも分からない点を補足して頂いた。
- 外国ではこのようにしていた方が良いということを一アドバイスしてもらえた。
- 学生だけでは不安な部分が多く、先生がいることで安心することができた。
- とても話やすく、優しく、無駄な緊張をすることなく研修期間を過ごすことができた。
- 研修に対し、不安や緊張もあったが、先生方から話しかけて下さり、支えていただいた。常に先生がいること自体が安心だった。
- やさしくて、面倒をたくさんみてもらえて、すごく良かったです。
- いっぱいアドバイスをくれて良かったです。
- 初日の夜、アイホップへ向かう時にバスから降りるのが早くて、お店を探しながら長距離を歩いたときに、住所の見方とかが全然わからなくて、その時に先生たちが建物の数字（住所）を見ながら誘導してくださり、救われました。
- 適切なアドバイス、教員の方ならではの質問があり、ありがたかった。
- 一緒に過ごして緊張せずに過ごせた。
- 通訳の方では伝えきれなかったところや、病院の業務の中でスタッフが何をしてくれていたのかを教えてくださいました。
- 引率して頂いた先生は話しやすい先生方であり、アクティブで、私たちが計画したことにも積極的に参加して下さい、楽しい時間を過ごすことができた。
- 電車やバスの乗り方などを教えてもらった。自分たちが気づかないようなことも、確かに気になる！というところも先生たちが質問していて、参考になった。
- 学校の話などもできた。



### ➤ 引率の先生が居て良かったと思った場面；

- 施設での文化発表の際のフォロー、交通機関利用時等のフォロー。
- 行動しようかどうか躊躇ったときに背中を押してくれた。私たちが気づけないような質問をしてくれた。
- 英語がわからないときに話してくれた。
- わからない用語や難しい専門用語が出てきたときに説明を受けられた。また、先生からの質問により、私たちが気付かなかった視点から学ぶことができた。
- 全く知らない土地で、全然分からなかったが、私たちを導いてくれた。
- 病院の雰囲気にも多少緊張したが、先生がいるおかげで良い意味で身が引き締まり集中できた。
- 毎日予定が詰まっていた先生方も大変だったと思いますが、私たちをサポートして下さい、先生方がいてくださったおかげで最後まで安心して研修に集中できた。
- 病院見学の際や、自由行動の際に、教員でしか分からない観点でのアドバイスがあった。
- 理学療法の見学のときに、何が行われているのかを解説していただいた。

## 研修で印象に残っていること・もの

- 分業が細かくされていて看護師一人にかかる負担が少なかった。このこと自体も印象的だが、日本と比較した時に、日本人の働く量はすごいなと感じた。
- ユニバーサルスタジオやグリフィス天文台などで、思っていたよりも日本人観光客が多かった。
- 高齢者施設でのボランティア活動！上手く言葉は伝わらなかったけど、高齢者の方々の笑顔が見られて、とても嬉しく、とても楽しかった。
- 貧困が深刻であり（路上で毛布にくるまって寝ている人、飴を売りに電車に乗る少年…）、医療費を支払えない人がいる一方で、高額な医療費を支払える人がいるということが印象的。制度を変えようにも保険会社や薬剤を作る会社など、資本至上主義の中では経済が一番であるから、弱者・貧しい人は貧しく医療が受けられないのだなあ…と思った。
- 講義内容は日米の違いをハッキリと理解できた。また研修においてはロサンゼルス病院の特徴が見れた。さらに選択実習では学生主体で動くことができた。
- ボランティアで入所者と関わったこと。
- 小児のシャドウイングで看護師や患者さんと関わったこと。
- IHOPまで歩いたこと。
- ドジャース・スタジアムの雰囲気、ドジャース・スタジアムの花火。
- グリフィス天文台の夜景、ヘリポートからの絶景。
- 老人施設での日本文化の紹介。
- 理学療法士とアシスタント理学療法士のリハビリ・セッションの見学。



## 自由記載（ココが面白かった、この実習の魅力など）

- ボランティアの準備は大変だが、実際にやると心にくるものがある。次も是非行おうべき。
- 日本では体験できない病院体験や、アメリカの文化に触れることができるので、行える環境があれば、是非参加するべき。
- 小児やER、周産期、リハビリテーションなど、様々な分野のアメリカの医療を一回の研修で見学できることはすごくいいのかなと思う。
- 一番の思い出はドジャースかな。
- 門限はあったけれど、事情により、普通に22時過ぎてもご飯食べたり、外出したりしたけど、先生と一緒にだったのでよかった。安全。
- 振り返ってみると、印象に残っているのは現地の人との会話や、交流をしたことが多くを占めていることに気付いた。小児のシャドウイングで看護師に頑張って英語で質問して返答が返ってきたこと、患者さんと趣味などについて話せたこと、老人施設でのボランティアで入所者と会話しながら鶴を折ったこと。どれもすごく心が躍った！病院見学や施設見学の医療現場では通訳さんがいてくださったおかげで、説明を理解できたり、質問したりできたので良かった。でも、交流の場では、自分で話してコミュニケーションをとることができて嬉しかった。自分でできることにはいろいろとチャレンジしたかったので、とてもいい経験ができたと思う。
- ロサンゼルスで出逢った看護師、准看護師、医師、PT、OT、また通訳さんも含めて、多くの人との出会いに感謝して、この経験を日本で活かしていきたい。
- 現地の病院で、看護師長とかに説明してもらいながら見学できたことが、この研修の魅力♡
- 通訳さんの説明もわかりやすく、学ぶ環境が整っていた。
- 研修だけでなく、時間の合間を縫っての遊びがあったのも最高だった。先生と遊ぶ機会もなかなかないし！（笑）学んで遊んで、とても記憶に残る充実した研修だった。
- この実習では小児、急性期等々さまざまなタイプの病院をみることができる。



- 通訳さんがいるため、気兼ねなく質問もできるし、相手が伝えようとしていることも良く分かる。
- PTの学生は実際に理学療法セッションの全過程も見学させてもらえ、看護の学生はシャドーイングもすることができた。
- いろんな学科の人と触れ合えるし、医療についての視野が広がる実習！
- 私は他のメンバーと異なり、学生であっても既卒生で年齢も少し上だったため、現役のメンバーには気を遣わせてしまったと思う。それでも、みんな受け入れてくれたことに感謝でいっぱいだし、何より一緒にいることで、自分の知らなかった世界（分野）を知ることができた。学生同士の交流にもなるし、とても楽しい実習だったと思う。
- 費用はちょい高めだけど、学生時代でしか経験できない経験なので、ぜひ参加してほしい！
- 海外の医療を学びたい人にはオススメだと思う。きちんと講義もあるし、通訳さんや引率の先生もいるし…。
- 欲を言えば…もう少し時間に余裕があればよかった！研修がタイトに組まれていたため、一つ一つに時間的余裕がなかった。もう少し自由な時間が多くてもよかったのではないかと感じた。
- 今回、言葉が伝わらないことに力のなさを感じ、もっと多くの人と交流するためにも英語を話せるようになりたいと感じた。



## この研修経験がもたらした変化…

- 英語をある程度、日常会話くらいまでは話せるようになりたいと思った。
- 米国で一度は働いてみたいと思った。
- 将来自分が就職する際に、もしくは何か制度や仕組みをつくりたい（つくる必要がある）というときに、こうだったらもっとより良い医療が提供できるのではないかと考えるソースが得られた。
- 実習を経て、日本と米国の違いを確認してみようと思うようになった。
- ロサンゼルスのリハビリテーションのイメージの変化。
- 海外のナースも頑張っていて、負けていけないと思った。
- もっと意欲的に動こうと思った。
- 笑顔でいたいと思った。
- 英語が話せるようになりたいと思った。
- 日本とは違う医療の現状・システムを知ることができ、医療の分野にさらに興味を持った。
- 医師の代わりに病院を支えている看護師の役割を学び、もっと勉強を頑張ろうという気持ちになった。

## この研修を振り返って…

- 改めて振り返ってみて、この研修に参加して本当に良かったと感じた。自分たちだけの力で現地の病院を見学したり、実際にボランティアを経験したりというのは難しく、このような機会があり、恵まれているなと思った。研修も事前準備の段階から楽しく、とても良い仲間、先生と一緒に初めての海外研修に参加できて良かった。
- アメリカの医療を学び、刺激を受け、国際的に働くことや、NPなど、これから様々な道が開かれていることを強く感じた。自分を常に高め、より社会に貢献できる人になりたいと改めて感じた研修でもあった。選択実習も含め、とても充実して楽しい研修だった。先生方も同行して下さい、ありがとうございました！
- ボランティアの事前準備から帰国まであっという間だった。他学科の学生とは、ほぼ初対面でどうなるかと思ったけど、仲良くなって、皆それぞれの個性を活かして、準備や行動ができたと思う（先生とも仲良くなれたカナ…）。
- 研修は、講義内容も事前に調べてから臨んだが、PCだけではわからないことまで聞くことができ、とても為になった（2日間とも）。
- 病院も小児病院がとっても良くて、本当にシャドウイングの1時間があっという間だった。もっとやりたかった！
- ボランティアも、英語が通じたときの喜び、入所者の笑顔が嬉しかった。「交流」ができて、とても良かった！
- この研修の第一期生、パイオニア的存在になれてプレッシャーもあるが、来年へ経験を語ることもできるし、自分の人生を考えるきっかけにもなったし、密な時間を過ごせたし、大金がかかっているとはいえ、それ同等の、あるいはそれ以上の価値は全体としてみればあったのではないかと感じる。
- 今回参加して、とてもいい刺激になりました。また引率していただいた先生方をはじめ、いろいろな先生方の指導やサポートのもと、研修に行くことができました。この研修は学生にとっても貴重な財産となりますので、今後も是非実施していただきたいです。ありがとうございました。



## 最後に…

科目責任者の齋藤先生をはじめ、この研修の計画を立てて下さった先生方、ロサンゼルスで実習施設との調整等、研修そのものをコーディネートして下さった Millennia Education の皆さん、その他たくさんの方々のご協力あってこそこの研修でした。

また、資金的な援助をして下さった両親にも感謝しなければなりません。

おかげさまで、たくさんのことを学び、経験し、医療について考えることができました。

とても楽しく、充実した日々を過ごすことができました。

ありがとうございました。

理学療法学科3年 海沼慶明, 吉田雄亮, 2年 宮澤拓人  
看護学科3年 岡田梨香, 鈴木咲紀, 渡辺花奈  
助産学専攻科 栗田希



## あとがき

平成25年度カリキュラムとして開講した国際多職種協働実習の初回研修には、看護学科から3年生が3名、理学療法学科からは3年生が2名、2年生が1名、そして助産学専攻科から1名の計7名の学生が参加しました。

研修初日の朝、せっくなので単位修得とは関係なく、各参加者の思い出として形に残り、後輩の参考資料にもなるような研修報告書の作成を学生に提案してみました。学生たちは快く同意し、研修中から準備を始め、このような素敵な報告書を作ってくれました。これを公開するために、学生たちの初稿に写真を追加したり、多少の編集作業を加えましたが、これは学生が任意で作成した報告書です。ここから、学生がいかに充実した研修を送ることができたかが分かるのではないのでしょうか。この初回研修の成功は、科目責任者の齋藤先生、工藤学長、教務課の小野さん、引率の前田先生を始めとする大学教職員の皆様、そして学生たちに機会を与えて下さった保護者の皆様、ミレニア社のスタッフおよび各研修施設先のスタッフの方々など、多くの皆様のご協力あってこそです。改めて関係者の皆様に感謝申し上げます。

今回、私は視察で現地を訪れ、ミレニア社および研修施設先の担当者と研修内容を検討し、実際の研修には引率教員として参加しました。このような経験は私にとっても初めてのことでしたので、心配や不安も多々ありましたが、事故や大きなハプニングもなく、無事に研修を終えられたこと、また学生たちが研修を楽しみながらいろいろと学び取ってくれたことを嬉しく思うとともに、この報告書から、引率教員としての責務も十分に果たせたかな？と胸を撫で下ろしています。今回の研修経験が、参加者それぞれの未来に何らかの形で繋がることを強く願うとともに、今後、この科目がさらに良いものに発展しながら引き継がれ、継続されることを願っています。

理学療法学科 坂本由美